

神奈川イグレンの活動状況を伝える機関紙 <第 129 号>

神奈川イグレンニュース

発行：神奈川県異業種連携協議会（会長 金究武正）

発行責任者：専務理事(事務局長) 芝 忠 編集担当：宗和 正憲

〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センタービル 5 F

TEL 045-228-7331 FAX 045-228-7331 (TEL 兼用)

<http://www.kanagawa-iguren.com>

2013年8月号 【 今月のコンテンツ 】

- 神奈川イグレンご案内 1
- JICA 横浜からの受託事業完了報告とご案内 海外事業担当 加藤文男 2、3
- 「新事業・新技術支援フォーラム」(略称：戦略会議)の報告(その13) 4
- イグレン会員グループ・プロジェクト状況 4, 5, 6
- ふくおか会計事務所【 連載5 】公認会計士・税理士・中小企業診断士 福岡 雅樹 7
- 産学官交流サロンコーナー／事務局コーナー 8

【 神奈川イグレンご案内 】

神奈川イグレンでは先月行われました定時総会を受け、イグレン事務局の体制強化、新規会員の増強各種プロジェクトに関する動向などについてのスタッフ会議を行いました。

新規入会者に関する申込書も書式を一新致しました。旧申込書は使えませんので皆様周知をお願いします。

尚、今回の総会についての資料は関係部署に71通発送いたしました。神奈川イグレンは来年、30周年を迎えます。今後も多くの皆様のお役に立てるよう活動してまいります。ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

<プロジェクト動向は下記の通り>

- 高齢者孤立防止協議会
- 川崎市中小企業振興条例づくり
- 金沢区産学交流調査研究会
- 横浜北工業会、科学技術政策・大学連携センター、産業振興課などとの折衝
- 国際ビジネス推進プロジェクト、国際交流推進委員会
- 新事業・新技術フォーラム
- 産業 NAVI 福祉振興財団との協議
- 関東学院大学学生見学ツアー、関東学院大学研究調査活動
- JICA 活動関連
- 中小企業・地域経済研究会、中小企業政策研究会
- ものづくり懇談会
- サロン開催(西湘、三浦、横浜、川崎、海老名、尾上町)
- その他、他府県交流

【 JICA 横浜からの受託事業完了報告とご案内 】

JICA 横浜からの受託事業：SAARC 域内輸出競争力強化研修がすべて終了

海外事業担当 加藤文男

2009年2月に開始したJICA横浜からの受託事業のSAARC域内輸出競争力強化研修は、2013年6月28日をもって5年間7回の研修が終了しました。アフガニスタン、ブータン、ネパール、スリランカの4カ国で始まった研修は、2回目からバングラデシュ、パキスタン、3回目にはインド、モルジブが加わりました。5年間に参加した国は、合計8カ国、研修員の人数は全部で49名（内女性12名）を数えました。参加研修生は、SAARC域内8カ国の中でスリランカ、バングラデシュがそれぞれ10名で最も多く、インドの参加は、2010年の1名だけでした。ネパール、スリランカ、バングラデシュからは、毎年のように参加しました。

研修は、毎回約2週間の日程で実施。研修内容は、まず「日本の異業種交流活動の実態」「日本の中小企業支援施策の変遷」「5Sや経営理念、財務管理など中小企業経営に関する基本」などを講義の形で説明しました。また、経営革新計画や5Sなどで成果のあった中小企業の経営者から事業計画やご苦労話などをお聞きすると共に工場内を見学させていただきました。更に、研修員と経営幹部の方々とは懇談の時間もお願いしました。研修のために事前の打ち合わせから、当日のご説明やご苦労話、そして質疑応答と訪問企業の社長様はじめ幹部の方々に大変ご多忙な中、多大のご協力をいただきました。

研修のまとめとして、研修員の課題について帰国後に実践したい内容をアクションプランとして作成の時間をとりました。研修員には予め各自が職場で抱える問題を明確にして来日することをお願いしました。2週間という短い期間ですが講義内容や企業訪問を通して課題解決のヒントを得て、検討し、実施プランを作成し、最終日に発表するものです。講義の担当とアクションプランの作成支援は、すべて神奈川イグレンの皆様にお願いました。講義やアクションプランの作成支援の日程調整など講師担当の皆様には、大変ご無理をお願いしました。

最終回まで無事終了できましたのは、協力いただいた各企業の皆様と講師の皆様の誠意のこもった対応のお陰であり、改めて深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

この研修は、独立行政法人国際協力機構横浜国際センター（JICA横浜）が2002年9月に開設されたことに端を発しています。JICA横浜が、国際協力事業を展開するにあたり、神奈川県における地域特性と地域活動の経験を海外途上国への協力に活かしていくために、地域リソースの現状と国際協力への展開の可能性を探るため詳細な調査をしました。

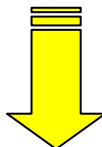
このとき、神奈川県内の行政、産業組織、住民組織に関する文献やデータベースが使用され、合計68の組織や団体がリストアップされ、地域性、活動主体、活動分野に関して組織の持つ総合的マネジメント能力について評価をしました。そして、当時の7つのNPO法人、3つの株式会社、商工会議所など20の組織・団体に絞られました。更に、第二次審査及びインタビューを経て、「地域経済活性化のための企業創出・育成支援コース」（研修事業）のプロジェクトに対応できる能力のある団体として、神奈川県異業種グループ連絡会議（現、神奈川県異業種連携協議会）がトップに評価され、決定したものです。

当時の報告書には、次のように記載されています。

「昭和59年に旧神奈川県工業試験所（現：神奈川県産業技術センター）内で官民の連携のもとに立ちあがった神奈川県異業種グループ連絡会議は、企業間連携のためのネットワーク組織として全国の草分け的存在となっている。異グ連は、一時はブームとなって各地に設立され、その後下火となっていった多くの異業種グループ活動とは、一線を画し、具体的な活性化プロジェクトの遂行（事業起こし）を担当責任スタッフによって実践されており、高度なノウハウの蓄積に裏付けられたその活動実績に対する評価は極めて高い。」

この様な経緯で開始した研修は、最初アルメニアの「中小企業人材育成研修」として中小企業経営者、商工会議所の幹部、アルメニア国の行政関係の幹部を対象に 2005 年開始されました。その後アルメニアは、日本からの支援の対象国ではなくなり、3 年契約で終了しました。研修内容が受講生から大変好評であったのでアルメニアだけで終了するのはもったいないとのことで「SAARC 域内諸国の輸出力強化研修」の形で 2009 年 2 月に委託事業として継続されました。この SAARC 域内研修は、当初、3 年の計画で始めましたが更に 2 年追加継続となり、今年度が最終となったものです。この研修は、一応今回で終了しますが神奈川イグレンとして、対象国を変更して更に継続するよう JICA に対して現在営業活動中です。

注：SAARC（南アジア地域協力連合）とは、南アジア諸国民の福祉の増進，経済社会開発及び文化面での協力，協調等の促進等を目的とした南アジアにおける比較的緩やかな地域協力の枠組みのことで加盟国は上記 8 カ国です。



JICA ボランティア帰国報告会のお知らせ

私達、神奈川イグレンが後援をしております JICA のボランティア帰国報告会が下記日程にて行われますのでご案内申し上げます。（詳細は別紙添付資料をご確認下さい）

- 【日 時】：9 月 7 日（土曜日） 13 時～18 時
- 【会 場】：JICA 横浜 4 階 会議室「かもめ」「いちよう」「やまゆり」
- 【主 催】：JICA 横浜

開発途上国で 2 年間にわたって活動された青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティアの方々の報告会を開催いたします。

今回は、2013 年 3 月以降に帰国された神奈川県出身のボランティアの方々が、現場での活動の様子や感じたことを報告されます。日本と異なる環境で、ボランティアの方々が直面した課題やエピソードを生の声で聴いてみませんか？みなさまのご参加をお待ちしております！

- 【内 容】：JICA ボランティア事業の概況のご説明・帰国ボランティア活動報告・参加者交流会
- 【参加費】：無料
- 【定 員】：100 名（※先着順、定員に達した時点で締め切ります）
- 【後 援】：神奈川県庁（予定）・神奈川県経営者協会・神奈川県中小企業家同友会
神奈川県異業種連携協議会・横浜青年会議所

【参加方法】

- ・参加をご希望の方は、下記【申込・お問合せ先】へ、8 月 30 日（金曜日）までに、「(1) お名前 (2) ご所属先 (3) ご連絡先」をお知らせください。

※ご注意

お電話で申込の場合の受付時間は下記の通りです。

- ・月曜日から金曜日（休日・祝日を除く） 9 時半から 16 時半（12 時半から 13 時半を除く）

【申込・お問合せ先】

JICA 横浜 市民参加協力課 横浜市中区新港 2-3-1

担当：石井 実枝子（いしい みえこ）電話番号：045-663-3221（直通）Fax: 045-663-3265

E メール：Ishii-Mieko@jica.go.jp

「新事業・新技術支援フォーラム」(略称：戦略会議)の経過報告(その13)

神奈川イグレン事務局 松井利夫

第25回フォーラムは平成25年6月26日に開催。最初に遠藤氏から、韓国の大学で最近のプレス機について講演された内容について簡単な説明があった。その時の詳細な説明は省略するが、プレス機について、次のような説明があった。「プレス機は用途に応じてさまざまに開発されてきた。サーボモーターを使ったプレス機は、愛知の東洋工機が世界に先駆けて開発、ACサーボモーターが開発されたことが大きな要因である。その後、汎用プレス機のサーボ化へと進化、金型の進歩を促し、段差加工やワンショットフォーミングに至っている。サーボプレスによる加工例として、奥寺さんと自分が手掛けた流体動圧軸受けは、溝深さ制度が1ミクロン、放電精密の50トンサーボプレス機をクリーンルームに入れて作った。奥寺さんや自分のところは、どこも出来ない、プレス加工は無理だといわれるものが回って来ている。今も、非常に難しい精密プレス加工を手掛けている。受けられた補助金、助成金の累計額は群をぬいている。奥寺さんと自分の関係先には、ものづくりに関する企業、学者、研究者、研究機関の人脈がざっと300人はいる。あらゆる技術に関するコラボレーションが可能である」とのことであった。

芝氏からは、「中国・韓国から高炉のメンテナンスを頼まれたが、日本の大手鉄鋼会社には、メンテナンスが出来ないため、大分の知人が頼まれて指導してきた。」という話がある。

鈴木氏からは、「話は変わるが、自衛隊の飛行艇PS-2は、105km/hの低速でも飛行が可能であり、4mの波でも着水出来ることから辛坊氏達を助けることが出来た」との話があった。次に、奥寺氏からは、持ってきたハードディスクケースが、いろんなメモリーが出来たため使えなくなってしまったことや、IBMのハードディスク部門を日立が買収した、その後売却して経過の説明があった。

更に、持ってきたワイヤーカット試作加工部品を、これからプレスで作ることを考えている。幅3mm、厚さ1mmの蚊取り線香のような形状をした部品で、プレスする場合は、厚さ1.5mmのアルミ板をプレスで1mm位に鍛圧加工するわけであるが、ダレやバリが無く破断面が真っ直ぐでなければならない。約1000トン位の鍛造プレスが必要であると判断している。現在、この開発のため補助金(サポイン)を申請中、との説明があった。

奥寺氏からは、スターリングエンジンについても「スターリングエンジンの開発に当たって、もの作りに精通した人があまりいないのではないかと。まず、図面通り出来ていることが大切である。現場でよく知った人が1.2日、見てあげれば解決できる問題もあるのではないかと。」との発言もあった。

【 イグレン会員グループ・プロジェクト状況 】



<http://www2.manten-project.org/>

瀧澤 清

残暑お見舞い申し上げます。

会員企業「宇宙エレベータ」技術競技会参加チームを支援

8月9日「こうのとりのこり」4号は無事国際宇宙ステーションにドッキングし、関係者の努力とご苦労が拝察されます。現在、ステーションへの輸送は、ロシアのソユーズとこうのとりのこりで行われておりますが、将来的には、ステーションと地上を結ぶエレベータを建設し人材(私のような老人でも可)、資財を安全、確実に搬送しようとする計画があります。

宇宙エレベータ(軌道エレベータ)の構想は、旧ソ連が1960年に構想を発表したが、一般的にはSFの世界での話として取り上げてきたが、近年、ナノカーボンチューブの開発が進み、大林組では2050年を目標に毎分1,000メートルの速度を持つ宇宙エレベータの計画を発表するなど、現実の世界とし研究開発も進みつつあります。

今月の8月7日～10日の4日間、富士宮市裾野を会場とし第5回宇宙エレベータチャレンジ技術競技会(到達高度1,200m)が開催され、協議会に参加するK大学の昇降機の製作に複数の会員企業が協力しています。

【 C&Sグループ 】

「平成25年度SBIRの交付方針」が7月下旬に閣議決定されました。

C&S会長 松井利夫

平成25年度SBIR(中小企業等に対する特定補助金等)の交付方針が7月下旬、ようやく閣議決定されました。平成25年度のSBIRは、予算が確定する以前の1月頃から募集を開始して、7月頃には大部分の募集が終わっています。それにもかかわらず、閣議決定がこんなに遅いのは何とも理解できません。現実には、当初予算案通り予算が確定することを見越して募集を開始している訳ですが、もっと早く閣議決定が出来ないものかと思えます。その「交付方針」から伺えるポイントは次の通りです。

問合せ先

【C&Sグループ事務局】

神奈川県中小企業センタービル5階
神奈川県異業種連携協議会 事務局内
〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80
電話：045-228-7331 (FAX 兼用)

会長 松井利夫、事務局長:杉本 明子
ホームページ:

<http://www.kanagawa-iguren.com/c-and-s/>

1. 支出目標額：約455億円（昨年度は453億円。但し、実績見込額は374億円+ものづくり関係の追加分1,000億円）
2. 関係省別特定補助金等の内訳(括弧内は平成24年度)
 - ①総務省関係 10本(13本)、②文部科学省関係 3本(5本)、③厚生労働省関係 2本(2本)、④農林水産省関係 18本(24本)、⑤経済産業省関係 73本(71本)、⑥国土交通省関係 5本、(3本)、⑦環境省関係 2本(1本)、合計113本(119本)
3. 「認定経営革新等支援機関」による支援：国は、特定補助金等に係わる研究成果を利用して事業を行う中小企業・小規模事業者等に対し、「認定経営革新等支援機関」による市場化・実用化に向けた経営支援が効果的に行われるよう、支援ネットワークの構築、支援ノウハウの提供等に努める。

※ 「認定経営革新等支援機関」とは、平成24年8月30日から施行された「中小企業経営力支援法」に基づいて設置された機関です。平成24年11月5日から平成25年7月10日までに13,459機関が誕生しています。この機関は、①中小企業の経営資源の内容、財務内容その他経営状況の分析、②事業計画策定に係わる指導及び助言、③当該計画に従って行われる事業の実施に関し必要な指導及び助言、を行うことになっています。
4. 中小企業ビジネス支援サイト「J-Net21」にSBIR特設サイトを開設しています。特定補助金等の交付を受けた中小企業・小規模事業者等は、それぞれの専門ページを設け、そこに研究開発成果や事業化・商品化情報などを自由に掲載し、PR出来ます。<http://j-net21.smrj.go.jp/expand/sbir/index.html>

C&Sグループでは、毎年秋に「補助金獲得セミナー」を実施しています。今年は平成26年1月に開催する予定ですが決定しましたらお知らせします。SBIRに応募しようとする方は募集の始まる2,3ヵ月前から応募の準備をされるのが望ましいですが、平成26年度に応募しようと考えている特定補助金が、はたして募集するだろうか、募集するとしたら何時からか、など分からないことが多くあります。そのため、平成25度の募集情報や過去の情報を参考にして中小企業事業等の皆さんに平成26年度の補助金申請等の無料相談を行っています。お気軽に声を掛けてください。

【 第142回・日韓ビジネス協議会 】

高橋 導徳

8月の恒例の工場見学を下記の通り実施致します。

尚、暑気払い会は見学後、JR淵野辺駅の近くの店で開催します。

【会費】：1,000円、暑気払い会は実費精算。【日時】：2013年8月19日(月)

【集合場所】横浜線JR淵野辺駅 南口改札前 午後2時30分(時間厳守)

見学先：JAXA相模原キャンパス(宇宙航空開発機構)

見学時間：午後3:00~4:30

<http://www.jaxa.jp/about/centers/sagamihara/> (高橋携帯：080-3171-4069)

かながわビジネスオーディション2014

ビジネスプランを8月1日(木)より募集中!

募集を開始した「かながわビジネスオーディション2014」では、皆さまが新たに取り組もうとするビジネスプランを募集中です。最終審査に進んだ方には、来年2月6日(木)、パシフィコ横浜でビジネスプランを発表していただき、優秀なビジネスプランには表彰を行います。(トップ賞は神奈川県知事賞で、副賞50万円)今回大幅に内容のリニューアルを図り、事業化の実現のバックアップ体制の充実・強化を図りました。

【募集期間】2013年8月1日(木)~29日(木) 必着

【応募要件】ホームページでご確認ください。

(※すべての応募要件に該当していない方は対象外。)

【応募費用】無料

(※最終審査に進んだ場合、交流会参加費が必要)

【応募方法】申込書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、E-mailにてお申込みください。

【URL】 <http://b-audition.kipc.or.jp/ba2014>

【問い合わせ】

かながわビジネスオーディション実行委員会事務局

公益財団法人神奈川産業振興センター経営支援部事業化支援課内

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル4階

TEL : 045-633-5203 / [E-mail:kba@kipc.or.jp](mailto:kba@kipc.or.jp)

【 首都圏秋田応援団・・・地域活性化プロジェクト 】

地域活性化プロジェクトオフィス 宮川 豊

☆毎週土曜日大口通商店街(神奈川区)濱の市で「北東北地元産市」を開催!!

この取り組みは1 昨年の3月に異グ連(現神奈川県異業種連携協議会)のご支援を得ながら横浜で「首都圏秋田応援団」が結成されました。その後も秋田の活性化をテーマに秋田の物産販売を中心としたイベントを重ねる中で、商店街からも支持を得て今年の6月からは青森、岩手の物産も加えて「北東北地元産市」として濱の市の店頭で販売しております。

悪天候でない限り午前10時~午後3時迄開催しています。お近くにお越しの時はお寄りください。

また私(宮川)が販売していますので必ずあります。お声をお掛けください。

尚、今後首都圏でこのような活動を展開したいと思います。何か情報がありましたらお気軽にお寄せください。

■連絡先: 地域活性化プロジェクトオフィス 宮川 豊 携帯080-1255-3875迄

【 高齢者孤立防止のための事業化研究会 】

老後の心づくり無料相談・・・介護や老後の悩みをカウンセラーに聴いてもらおう

◆ 8月20日(火)29日(木)30日(金) 横浜市南区浦舟町市民総合医療センター前ビル10F
みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

◆ 9月5日(木) 神奈川中小企業センターにて

【時 間】 10時～16時 相談時間45分 1日20名、先着順。
本人、家族、看護師、ケアマネージャー、介護職関係の方が対象です。

【主 催】：NPO 法人 いのちどころ 担当出口_090-8942-4022

E-mail:lesson@inochi-kokoro.or.jp FAX045-743-9972

【共 催】：神奈川県高齢者孤立防止支援協議会（神奈川県異業種連携協議会）

担当芝 _ 090-4222-5746 E-mail:shiba.tadashi@gmail.com FAX045-228-7331



ふくおか会計事務所
公認会計士・税理士・中小企業診断士 福岡 雅樹

<http://www.tax-fukuoka.com/about/index.html>



税制関連【 連載 その5 】 【消費税の課税/非課税/不課税取引について】

消費税の税率引き上げの話題が、以前に増して新聞紙上を賑わすようになってきました。原則として消費税の納税額は、売上により預かった消費税から仕入により支払った消費税を控除した残額となります。

消費税の計算にあたり、売上は課税取引、非課税取引、不課税取引に分けられ、非課税取引及び不課税取引は課税の対象となりません。それでは、売上はどのような基準で課税取引、非課税取引、不課税取引に区分されているのでしょうか。

消費税は「対価を得て行う取引」が課税対象となるため、無償の取引は課税されません。このように対価を得ない無償の取引を不課税取引といい、例えば寄附や単なる贈与、出資に対する配当がこれに当たります。

また、対価を得て行う取引であっても、課税対象になじまないものや社会的配慮から消費税を課税しない取引があります。これを非課税取引といい、例えば土地、有価証券、商品券などの譲渡、預貯金の利子や社会保険医療などがこれに該当します。

非課税取引と不課税取引は、どちらも消費税が課税されない点で共通しますが、両者は明確に区別して日々の記帳を行わなければなりません。それは、非課税取引の金額が課税売上割合に影響を与えるためです。課税売上割合は、消費税の計算を行う事業年度における課税売上と総売上の比率であり、以下の算式により求められます。

課税売上割合＝課税売上 / (課税売上＋非課税売上)

課税売上割合が 95%以上の場合、納税する消費税額は、預かった消費税から支払った消費税を全額控除した残額であるのに対し、課税売上割合が 95%未満の場合は、支払った消費税の一部を控除した残額です（課税売上高が5億円超の会社は、この限りではありません）。このため、課税売上割合が 95%未満の場合は、95%以上の場合に比べて支払う消費税額が多額になります。

仮に、本来不課税取引であるものを非課税取引として処理すると、課税売上割合が実際より引く計算され、納付する税額が過大となる可能性があります。

このように、非課税取引と不課税取引の区分を誤って処理した場合、納付する消費税額に大きな影響を与える可能性があるため、両者は明確に分けることが求められます。

	尾上町サロン	西湘サロン 第46回	三浦半島経済人サロン 第58回	神奈川新産学公交流 第57回 サロン横浜
日程	8月16日(金) 9月06日(金) 17:15~19:30	9月9日(月) 18:00~20:00 開場は17:30~	9月19日(木) 18:00~20:30 開場は17:30~	8月21日(水) 18:00~19:50 20:00~交流会、暑気払い
場所	神奈川県中小企業センター5階 イグレン事務所	日本生命小田原ビル 4階会議室 小田原市本町1-4-5	神奈川新聞社 横須賀支社 5階会議室 横須賀市小川町21-9	神奈川中小企業センター 5階 会議室 イグレン
連絡先	045-228-7331	イグレン(島津、吉池、)	イグレン(八幡、鶴野)	(織方、篠原、坂本、杉本)
内容	ざっくばらんに語りながら交流を深めましょう。 参加費:1,000円	「セルフ・ケア支援システムを用いた健康管理」 (株)HSP研究所 所長 医学博士 高橋為生氏 (詳細は別紙にて) 参加費:1,000円	「0-リング・テストによる自分で出来る安全確認」 汚染食品を自分で簡単に判断できる (株)Nセラ研 代表取締役 永瀬 英次郎氏 参加費:1,000円	「首都圏との地域間を通じ秋田の活性化を目指す」 地域活性化プロジェクト オフィス代表 宮川 豊氏 参加費は暑気払いの費用を含め3,000円程度

【神奈川イグレンよりのご連絡】

8月12(月)～8月16日(金)までお休みをいただきます。

但し、16日の尾上町サロンは開催しますのでご予約のつく方は参加をお願いします。

8月に入り、ますます暑い日が続いています。例年になく積乱雲の動きも活発で、ところによっては局地的に豪雨に見舞われたり、雷の被害にあうといった地域もあります。特に海水浴中にゴロゴロという音を聞いたら油断せず避難しましょう。海に落ちた雷は海上を走りますのでとても危険です。夏はどうしても海難事故、山岳事故などが多くなる季節です。楽しい夏を過ごすには決して物事を過信しない事が必要なのかもしれません。まだまだ暑いので皆様お体ご自愛くださいませ。

「神奈川イグレンニュース」は多くの皆様方からのご意見や投稿、感想などを頂戴し、情報を共有する事によって未来へつながる「役立ち情報誌」です。こんなことが新たなビジネスにつながった。とか、思いもしなかった出会いでこんな事になりました・・・など原稿を募集中です。お伺いできる範囲であれば取材にもお伺いします。尚、自薦・他薦は問いませんのでご連絡頂ければと思います。



神奈川イグレンへの連絡問合せは、上記事務局当番者 Tel: 045-228-7331 Fax: 045-228-7331 (TEL 兼用)
ご意見、感想などあればこちらまでお願いします。 mail masahito@ab.bb-east.ne.jp

神奈川県異業種連携協議会 交流アドバイザーが詰めております、気軽にご連絡ご相談ください(無料)

【月】①③④荒 直孝 ②⑤宮川 豊【火】①③⑤児玉 英二 ②④八幡 敬和【水】①愛賢司②③④⑤杉本 明子(芝)

【木】①②指方 順一①②③④⑤ 松井 利夫【金】①菊地(芝)③村上②④⑤織方 【土、日、祭日】は休業

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル5階 神奈川イグレン事務局

T/F 045-228-7331 URL: <http://www.kanagawa-iguren.com> Mail: iguren@kanagawa-iguren.com